

ま え が き

保健管理センター（以下、センター）では、先に報告書第14号（昭和59、60年研究業績集および業務集計）を発刊した。その後、人事の異動に伴い、引継ぎに若干時間を割いたが、幸に後任の東福教授の熱意によって、学生の健康管理の方式や日常業務においても新しい工夫が加えられ、定期健康診断時の検査方法の改善、コンピューター活用による成績の記録など、次第に改善がもたらされつつあることは、大変よろこばしい。

先号にも述べたように、保健管理センターのあり方、将来構想については、十年来多くの論議が重ねられた結果、本年漸く全国的な協議会がもたれる方向が定められた。

今後は他大学センターとの情報交換、共同調査研究の成果等を参考に、できるだけ時代に即した本学センターの充実を期していきたい。

本号でとりあげられた留学生健康調査は、将来の留学生増加に備えての資料として参考になると思われる。

文法経の移転に伴い、新規の分室が予定されており、乏しい人員でさらに厳しい制約を余儀なくされることが予想されるが、各部局に一層の御理解をお願い申し上げたい。

最後に、センターの整備・充実に格別の予算を御配慮いただいた本陣学長はじめ、関係各位に厚くお礼を申し上げる次第である。

昭和63年11月10日

金沢大学保健管理センター

所長 竹田亮祐